

個票 18 冬期湛水による鳥類等の生育環境の創出〔農 2(2)②16-1〕

(2011年作成)

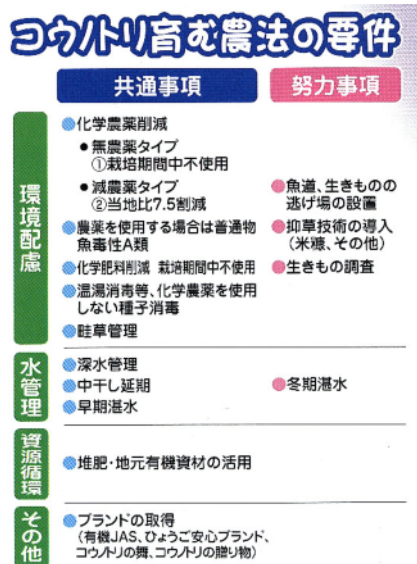
配慮の視点	種の多様性への配慮	配慮項目	野生生物の生息・生育環境の保全・創出
配慮事項	多様な水辺環境の保全・創出		
配慮事例	新しい生息・生育環境の創出		
内容	<p>●冬期湛水による鳥類等の生育環境の創出</p>		
	<p>【解 説】 冬期湛水とは、通常水田が乾いている稲刈り後～3月上旬までの間に水田に水を張り、冬期の水生生物の生育・越冬場とするものです。冬期湛水水田では、田植え時期までに膨大な量のイトミミズが繁殖し、水田土壌を取り込むなどしてトロトロ層と呼ばれる豊かな土壌の層を形成します。また、冬期湛水水田は、鳥類の冬期の餌場や休息場所ともなります。</p> <p>●栽培体系例 慣行水田：耕耘（秋）→代掻き（春）→田植え（春） 冬期湛水水田：耕起（又は不耕起）（秋）→冬期湛水（冬）→早期湛水→代掻き（又は無代掻き）→田植え（春）</p> <p>【関連する具体的技術】</p> <p>●深水管理 水深を深めにコントロールすることで、除草剤を使わずにヒエを防除することができます。 また、藻類（アミミドロ）が繁茂して水中への光を遮り、抑草効果もあると考えられています。</p> <p>●中干し延期 中干しと水稻の栽培中に一時的に田んぼの水を抜いて乾燥させ、土中に酸素を供給することで稲が健全に育つ生育には必要な課程です。しかし通常の時期に実施すると、水田に生息しているオタマジャクシが全滅する場合があります。 そこで、中干し延期ではオタマジャクシがカエル類に変態するのを待って中干しを行うものです。</p> <p>●早期湛水 田植えのおおむね1ヶ月前から田んぼに水を張り、ヒエの休眠打破やトロトロ層（豊かな土の層）の形成を促します。</p>		

【事例】

コウノトリ育む農法

【定義】

おいしいお米と多様な生きものを育み、コウノトリも住める豊かな文化、地域、環境づくりを目指すための農法（安全なお米と生きものを同時に育む農法）



出典：1

参考資料

1 「コウノトリ育む農法パンフレット」兵庫県但馬県民局豊岡農業改良普及センター 平成22年